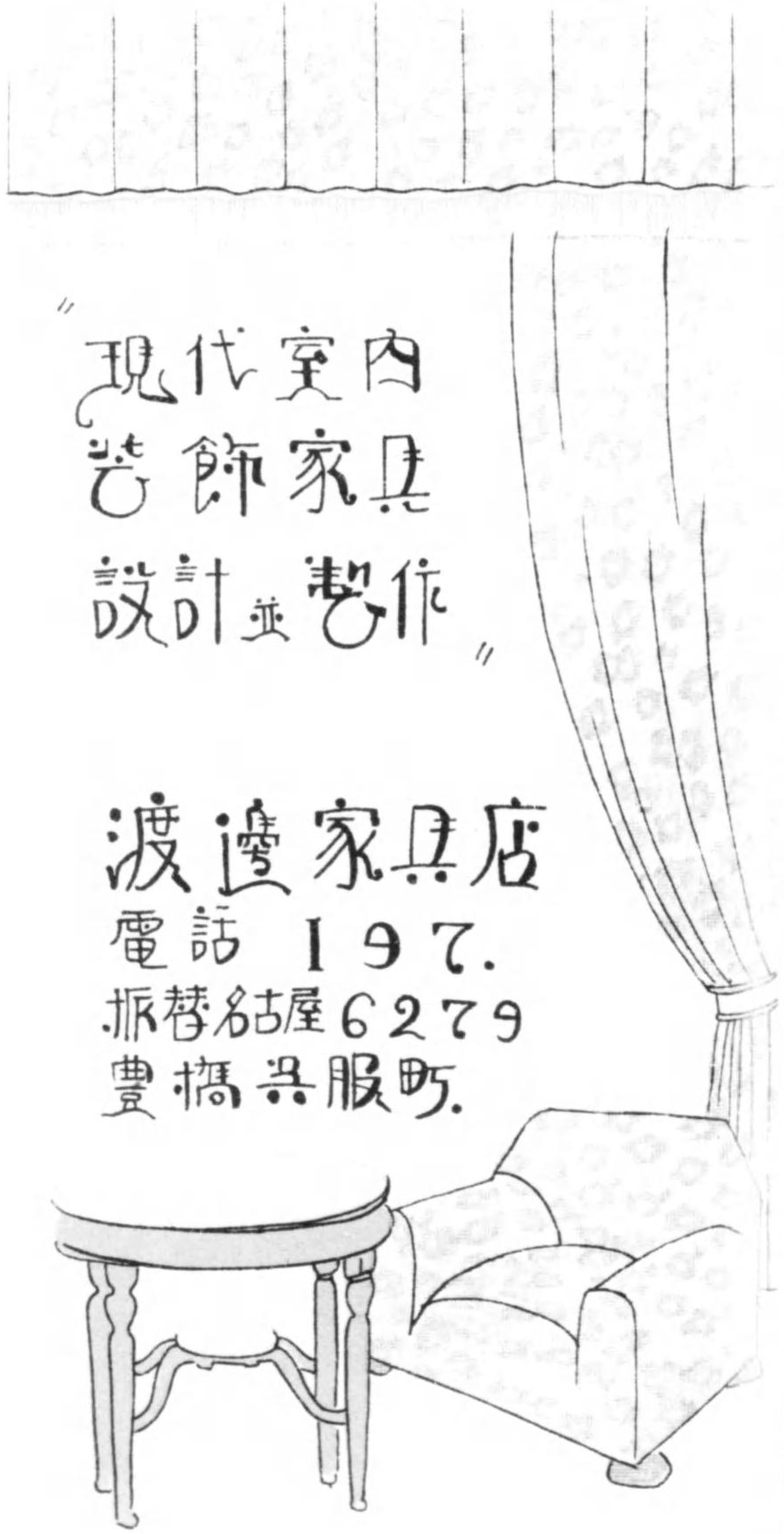
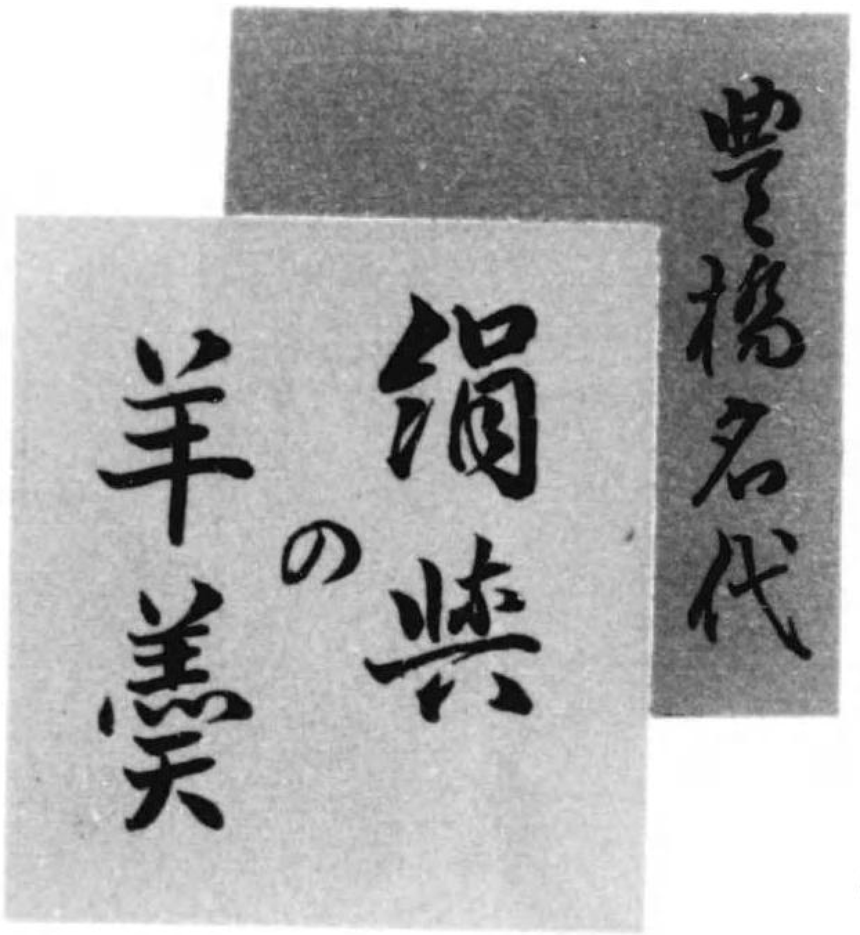
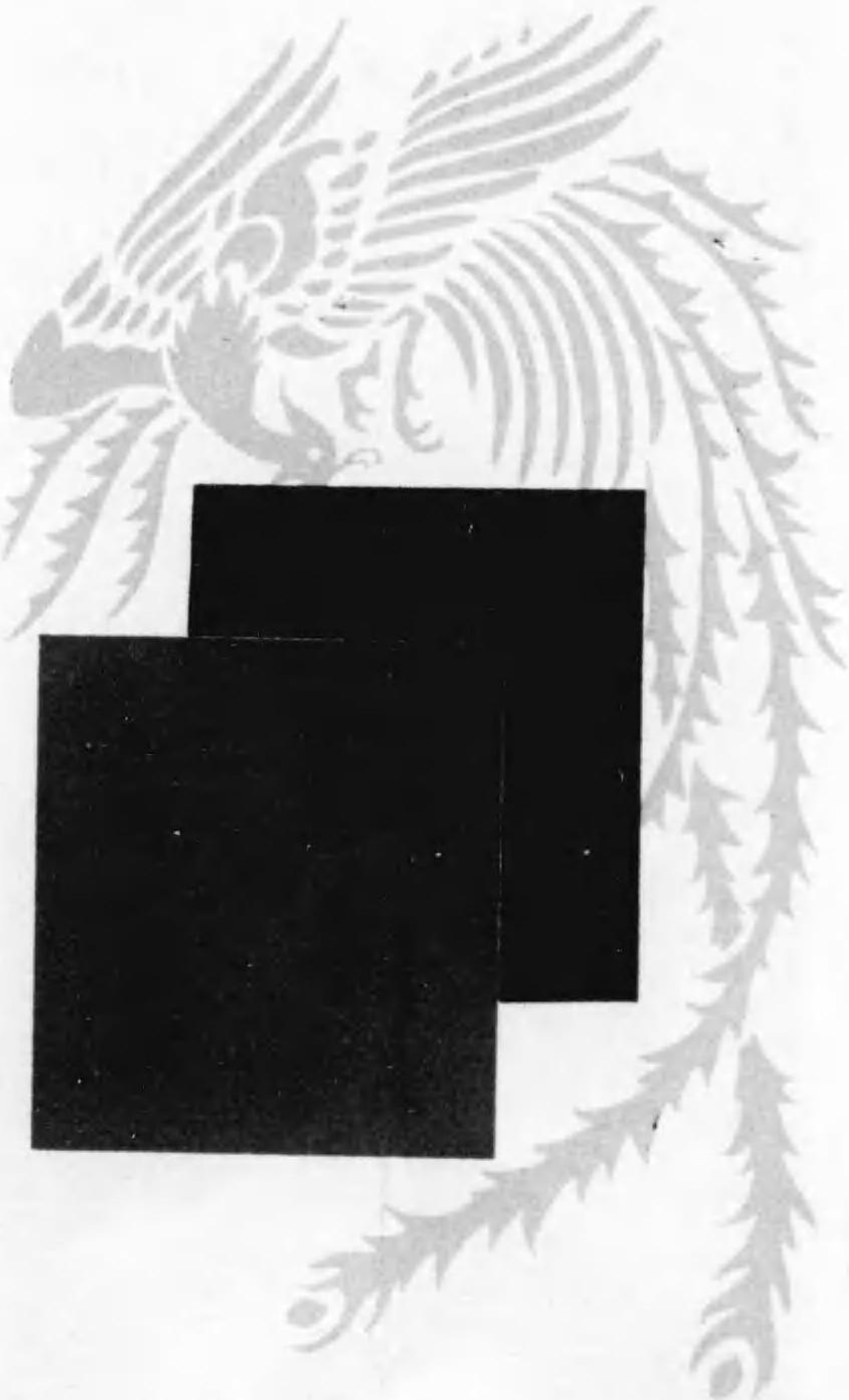
露光量違いの為重複撮影





露光量違いの為重複撮影



[redacted]

露光量違いの為重複撮影

○豐橋市內各驛乘降客

驛名	年次	乘降人員並ニ賃金 乘客（人）	賃金（円）	降客（人）	手小荷物數量並賃金 發送 個數	發送（斤）	賃金（円）	到着 個數	到着（斤）
豐橋驛	昭和二年	九三五・四一八	七六三・〇八三	九三七・三〇四	一六六・二四一	二・二三二・八三六	七五・七六一	三二四・三四二	八・七一八・〇五九
	昭和元年	九五八・三六三	八〇五・四三五	九四六・五〇八	一六四・二六五	二・八二三・九〇一	八五・五九七	三一五・九二三	七・五六五・七八三
	大正十四年	九二一・八一〇	八一五・五七二	九一六・九四五	一五七・六四八	三・一七三・五六五	七六・二八六	二九九・五四六	六・七八〇・二一八
	大正十三年	八七二・四四二	八二二・四七六	八五九・八一七	一五五・六五一	三・三五七・九五九	七七・七二三	二七九・七一六	六・二四二・四四四
	大正十二年	八五二・三七四	七五四・四七〇	八四五・三一二	一六一・六五一	二・五三七・〇〇三	八八・九五九	二四六・六六六	五・一四四・八四八
吉田驛	昭和二年	七六一・二二三 一一五・六九八	一六四・二七七 九四・二四四	七五二・三二〇 一一一・三一二	一四・五四四 一・二三五	二九三・三二三 二五・四六〇	一・八一二 四二六	六・五六四 一・一八七	二二三・一七二 二三・一六五
	昭和元年	六五四・一〇六	一九三・五八一	七五一・四四八	一四・七七七	三〇九・四九五	二・〇九四	六・八六四	二四六・四〇九
	大正十四年	五四七・五七三	一四一・三三七	五五八・二八七	一九・九一九	四六九・九〇一	二・八七三	九・五五八	三四四・八九三
	大正十三年	四七八・九〇四	一三四・四四五	四五〇・二六八	二四・八六九	六六三・九九三	三・七八三	二・二四七	四三四・四三二
	大正十一年	三九〇・四二〇	一二三・九七三	四二九・八三〇	二三・四九八	六二一・八二六	三・一九一	一・六五七	四二二・〇八五
花田驛	昭和二年	一八・二八四	三九・四五二	一〇八・二七三	三・七七〇	一四九・七一〇	八二〇	三・八六三	三一三・九一一
	昭和元年	一二六・六〇四	五〇・九三四	一二八・〇三三	四・六一三	一七三・三三三	九一八	六・〇〇二	二三八・六一七
	大正十四年	五八・二五六	二五・二六六	六八・三四四	一・二五〇	四六・二六八	二五一	一・二五三	五〇・八〇

露光量違いの為重複撮影

○豊橋市内各驛乗降客

驛名	年次	乗降人員並ニ賃金			手小荷物數量並賃金				
		乗客 (人)	賃金 (円)	降客 (人)	個數	發送 (斤)	賃金 (円)	個數	到着 (斤)
豊橋驛	昭和二年	九三五・四一八	七六三・〇八三	九三七・三〇四	一六六・二四一	二・二三二・八三六	七五・七六一	三二四・三四二	八・七一八・〇五九
	昭和元年	九五八・三六三	八〇五・四三五	九四六・五〇八	一六四・二六五	二・八二三・九〇一	八五・五九七	三一五・九二三	七・五六五・七八三
	大正十四年	九三一・八一〇	八一五・五七二	九一六・九四五	一五七・六四八	三・二七三・五六五	七六・二八六	二九五・五四六	六・七八〇・二一八
	大正十三年	八七二・四四二	八二二・四七六	八五五・八一七	一五五・六五一	三・三五七・九五九	七七・七二三	二七九・七一六	六・二四二・四四四
	大正十二年	八五三・三七四	七五四・四七〇	八四五・三一一	一六一・六五一	二・五三七・〇〇三	八八・九五九	二四六・六六六	五・一四四・八四八
吉田驛	昭和二年	七六一・二二三 愛電 一一五・六五六	一六四・二七七 九四・二四四	七五二・三〇 一二三・九一二	一四・五四四 一・二三五	二九三・三二三 二五・四九〇	一・八一二 四二六	六・五六四 一・一八七	二二二・一七二 二二・一六五
	昭和元年	六九四・一〇六	一九三・五八一	七五一・四四八	一四・七七七	三〇九・四九五	二・〇九四	六・八六四	二四六・四〇九
	大正十四年	五四七・五七三	一四一・三三七	五五六・二八七	一九・九一九	四六九・九〇一	二・八七三	九・五五八	三四四・八九三
	大正十三年	四七八・九〇四	一三四・四四五	四九〇・二六六	二四・八六九	六六三・九九三	三・七八三	一二・二四七	四三四・四三二
	大正十二年	三九〇・四二〇	一二三・九七三	四二九・八三〇	二二・四九八	六二一・八二六	三・一九一	一一・六五七	四二二・〇八五
花田驛	昭和二年	一一八・二八四	三九・四五二	一〇八・二七三	三・七七〇	一四五・七一〇	八二〇	三・八六三	三一三・九一一
	昭和元年	一二六・六〇四	五〇・九三四	一二八・〇三三	四・六一二	一七三・三三三	九一八	六・〇〇二	二三八・六一七
	大正十四年	五八・二五六	二五・二六六	六八・三四四	一・二五〇	四六・二六八	二五一	一・二五三	五〇・〇八〇

柳生橋驛	昭和二年	八二・〇八五	二一・六〇二	四四・七七一	一・〇一五	三四・六七六	二二九	五六六	一七・六九七
	昭和元年	七三・二四七	二二・六四二	八〇・一〇三	一・九三〇	七四・八四四	四〇〇	一・二五〇	五一・五四六
	大正十四年	二八・六七二	九・七二二	二五・六一一	五〇二	一九・四九九	一〇三	一六二	五・七四一
新豊橋驛	昭和二年	二五・〇七一	八・〇七二	三一・一七七	二九二	六・八九三	六二	三二九	一二・四二四

○豊橋市内各驛發着貨物

驛名	年次	小口扱 普通便 發送 數量	小口扱 普通便 發送 賃金	小口扱 普通便 到着 數量	特別小口扱 發送 數量	特別小口扱 發送 賃金	特別小口扱 到着 數量	貨切扱 普通便 發送 數量	貨切扱 普通便 發送 賃金	貨切扱 普通便 到着 數量	合計 發送 數量	合計 發送 賃金	合計 到着 數量
豐橋驛	昭和二年	二〇、六五七瓲	四六、四三三円	二一、四五四瓲	二、〇四八瓲	五三、一四五円	二、六八四瓲	五〇、六九二瓲	一五八、一六九円	一一八、六四二瓲	七三、三九七瓲	四五七、七四六円	一四二、七七九瓲
	昭和元年	二五、〇九九	二五四、六八七	二七、七〇六	八八〇	一〇、八七〇	四一三	五二、二二二	一七八、二二九	一一七、六五四	七八、二〇一	四三三、七七六	一四五、七七三
	大正十四年	二六、四七九	二六三、二五六	二七、〇四二	八一六	一一、八四八	四二八	六〇、三二二	二〇一、九三九	一一三、五三〇	八七、六一七	四七五、〇二八	一四五、〇五六
	大正十三年	二七、五八三	二六九、五二六	二四、一七三	七四七	一三、八七六	六四二	五五、三三二	一八二、〇二九	一〇七、四四〇	八三、六六二	四六四、四三三	一三二、二五五
	大正十二年	二三、五四五	二三八、三七三	二六、九一三	七三三	一三、五四八	三五三	四九、六二九	一四五、六六〇	一〇四、五九七	七四、三二三	三八六、五八五	一三一、八六三
吉田驛	昭和二年	六、一六三 愛電 二三三	一四、一三六 六〇四	一〇、九〇〇 六〇八	…	…	…	二、〇三四 六〇一	二、一三九 七八三	五二、〇三三 一、三八三	八、一九七 八三四	一六、三六五 一、三八六	六二、九三三 一、九九二
	昭和元年	六、三一〇	二一、三〇九	五、九二一	…	…	…	三、七三一	三、五三七	五六、〇五一	一〇、〇四一	二四、八四六	六一、九七二
	大正十四年	七、〇八八	二三、一八〇	五、五二七	…	…	…	五、一三〇	五、八〇五	三一、五五八	一二、二一八	二九、八八五	四三、二四九
	大正十三年	七、四八三	二七、三一七	六、〇一九	…	…	…	四、一八四	四、四九八	二七、二七七	一一、六六七	三一、八一五	三三、二九六
	大正十二年	八、三八一	二五、四〇〇	六、六八〇	…	…	…	三、九九六	四、五二三	二二、二九〇	一二、三七七	二九、九二三	二七、九七〇
船町驛	昭和二年	一四〇	二九二	五三	…	…	…	五一、二四三	二六、〇一九	八、三九七	五一、三八三	二八、三一一	九、四五〇
	昭和元年	一二九	六〇四	八四	…	…	…	三九、七四三	七〇、五七七	六、三三一	三九、八七二	七一、一八一	六、四一五
	大正十四年	三〇九	六七二	四二八	…	…	…	三三、六四四	六九、四〇六	六、二二八	三三、九四八	七〇、〇七八	六、六四六
	大正十三年	二八五	七一八	四八	…	…	…	三〇、八三一	四一、二三五	四、八三〇	三一、一一六	四一、九五三	四、八七八
	大正十二年	一六〇	五三七	四〇	…	…	…	三一、五一六	二五、六一四	四、七九〇	三一、六七六	二六、一五一	四、八三〇
花田驛	昭和二年	二、九〇二	六、〇三五	一、三二一	…	…	…	二、五〇〇	一、八二四	五、一三七	五、四〇二	七、八五九	六、四五八
	昭和元年	四、九〇三	七、八六一	三、五六九	…	…	…	二、〇四三	二、二八七	七、五五三	六、九四六	一〇、一四八	一一、一二二
	大正十四年	二、二〇五	三、八四三	三、五七三	…	…	…	六九二	七六四	二、八七三	二、八九七	四、六〇七	五、四四六
柳生橋驛	昭和二年	一、一九二	二、七六〇	九二八	…	…	…	五五一	四二六	四、七〇二	一、七四三	三、一八六	五、六三〇
	昭和元年	八六七	二、三七〇	四四六	…	…	…	二四六	三五二	一、八三五	一、一一三	二、七二二	二、二八一
	大正十四年	三〇〇	五四〇	八六	…	…	…	…	…	…	三〇〇	五四〇	八六

○豐橋市內各郵便局郵便物

年次	通常 引受	通常 配達	書留 引受	書留 配達	小包 引受	小包 配達	價格表記 引受	價格表記 配達	合計 引受	合計 配達
昭和二年	一三、六六二、七三〇	九、七〇七、八八〇	一四六、四〇六	一五五、三〇六	一二四、三九一	一四一、八四四	三、三四七	三、九〇九	一三、九三六、八七七	一〇、〇〇八、九三九
昭和元年	一〇、六四〇、六七〇	九、五七三、六八五	一三七、六六八	一四七、六四二	一一八、七一七	一三三、八四八	三、三二三	三、四九九	一〇、八九九、七六五	九、八五八、六六四
大正十四年	一一、五〇九、〇二三	八、七四九、三〇〇	一二四、〇二六	一五五、四八三	一二四、一九八	一三四、八八二	三、〇二三	三、八八〇	一一、七六〇、二六九	九、〇四三、五四五

○豐橋市內郵便爲替

年次	內國爲替 振出高 口數	內國爲替 振出高 金額	內國爲替 拂出高 口數	內國爲替 拂出高 金額	外國爲替 振出高 口數	外國爲替 振出高 金額	外國爲替 拂出高 口數	外國爲替 拂出高 金額	計 振出高 口數	計 振出高 金額	計 拂出高 口數	計 拂出高 金額
昭和二年	六一、五七三	円 一、七六四、六三一	六〇、四三九	円 一、五五九、一三二	一一四	円 四、〇六九	四八	円 二、〇七四	六一、六八七	円 一、七六八、七〇〇	六〇、四八七	円 一、五六一、二〇六
昭和元年	五三、八〇八	一、四九六、六七四	五八、八三八	一、四九五、九九二	九〇	五、一五〇	三二	八六五	五三、八九八	一、五〇一、八二四	五八、八七〇	一、四九六、八五七
大正十四年	五二、二一〇	一、六二一、六七八	六二、四七六	一、五六一、九一五	三〇	一、二九四	二〇	一、三二八	五二、二四〇	一、六二二、九七二	六二、四九六	一、五六三、二四三

○豐橋市內各郵便局郵便貯金振替貯金

年次	郵便貯金 預入高 口數	郵便貯金 預入高 金額	郵便貯金 拂渡高 口數	郵便貯金 拂渡高 金額	振替貯金 振出高 口數	振替貯金 振出高 金額	振替貯金 拂出高 口數	振替貯金 拂出高 金額
昭和二年	一四五・四一九	円 二・四〇二・一七六	四二・二三一	円 一・八四八・一五八	二八・一二四	円 八三一・四四二	四・九九〇	円 五一〇・九一五
昭和元年	一二八・八七三	一・五四二・八四五	三八・四四四	一・七四六・三七八	二六・〇四二	六六八・一九四	三・五〇八	三九三・九五〇
大正十四年	一三〇・六九四	一・五六四・六四一	三六・七三五	一・七七三・四七八	二五・三八四	六五七・五八八	三・三三〇	三五一・七四一

○豐橋郵便局郵便切手葉書收入印紙賣捌高

年次	郵便切手 枚數	郵便切手 金額	郵便葉書 枚數	郵便葉書 金額	收入印紙 枚數	收入印紙 金額
昭和二年	七・八七四・四六六	円 四〇二・〇〇八・三二〇	一〇・一六六・九六〇	円 一四七・九四六・〇三五	一・四一九・三九三	円 三四二・九四四・三二〇
昭和元年	七・六〇四・四五四	三八四・八九三・〇九五	六・八七五・〇七九	一一八・六〇八・三四五	一・七五七・七〇三	三八七・二六七・三一五
大正十四年	八・一二七・七六〇	三九一・六一四・三七〇	八・七〇〇・七七〇	一二七・五一二・五一五	二・二四六・六七八	三七五・七二四・七五五
大正十三年	六・八五一・九七三	二九二・五一五・七四〇	六・九七二・三九一	一〇二・一〇三・五五〇	一・八〇六・六八二	二八七・〇五二・一〇〇
大正十二年	四・三〇四・六二四	一九八・五九三・〇六五	四・〇〇九・一二四	五七・七七九・六一〇	一・二二七・九五四	一六二・九七六・三二〇

○豐橋郵便局電話通話數

年次	單獨加入者數	市內通話數	市外通話數	市外ヨリ通話數
昭和二年	二・一六三	八・二八五・六七九	三四一・一九二	三七〇・〇九七
昭和元年	一・八五五	七・三六七・八八九	三一四・五四四	三二三・四九五
大正十四年	一・五七〇	六・八五六・九六一	三一二・四八六	三〇三・三四九
大正十三年	一・三四〇	六・八七三・四五八	二九三・五四四	二八九・〇六九
大正十二年	一・三三一	七・五九九・三七八	二三五・四三二	二四六・二八五

○豐橋郵便局電報發着數

年次	內國電報 發信	內國電報 着信	內國電報 中繼信	內國電報 料金	外國電報 發信	外國電報 着信	外國電報 中繼信	外國電報 料金
昭和二年	一八四・七七四	二一九・八三五	一一三・九九二	六五・九五八円	一一	一二〇	三一	二二一円
昭和元年	一七九・八四八	二一八・〇二五	一一五・八九二	六四・四四三	九八	一二五	二八	一八二
大正十四年	一七六・〇二三	二一三・七九三	一一六・七四〇	六二・九九一	一〇四	九八	二三	二〇七
大正十三年	一六六・〇九一	二〇二・一七〇	一二〇・〇三八	五九・六八〇	一六七	一八二	六	四五一
大正十二年	一六二・一七五	一九八・八三八	一二七・九三三	五八・八五一	二六七	二六四	二五	四六三

○豐橋市內勞働賃金表

年次	別	織維工業 製絲工女（賄付）	織維工業 機織工女 綿動力機	織維工業 機織工女 絹手機	織維工業 機織工女 綿手機	織維工業 機織工女 製綿女工（賄付）	機械器 製鑵工	機械器 旋盤工	機械器 仕上工
昭和二年	最高	一・五六円	・九〇	一・一〇	・六五	一・三〇	二・〇三	二・〇六	二・一一
	最低	・四六円	・六〇	・八〇	・三五	・八〇	一・七〇	一・八〇	一・五〇
	普通	一・一三円	・七〇	・九〇	・五〇	・九〇	一・八七	一・九三	一・七五
昭和元年	最高	一・六一円	・九〇	一・一〇	・六五	一・三〇	二・〇三	二・〇六	二・一一
	最低	・四九円	・六〇	・八〇	・三五	・八〇	一・七〇	一・八〇	一・五〇
	普通	一・〇九円	・七〇	・九〇	・五〇	・九〇	一・八七	一・九三	一・七五
大正十四年	最高	一・八二円	・九〇	一・一〇	・六五	一・三〇	二・〇三	二・〇六	二・一一
	最低	・六五円	・六〇	・八〇	・三五	・八〇	一・七〇	一・八〇	一・五〇
	普通	一・一四円	・七〇	・九〇	・五〇	・九〇	一・八七	一・九三	一・七五
大正十三年	最高	一・六四円	・九二	一・一〇	・六五	一・三一	二・〇三	二・〇六	二・一一
	最低	・六二円	・六二	・八〇	・三五	・八一	一・七〇	一・八〇	一・五〇
	普通	一・〇五円	・七二	・九〇	・五〇	・九一	一・八七	一・九三	一・七五

具工業	木型工		二・〇〇	—	一・七〇	二・〇〇	—	一・七〇	二・〇〇	—	一・七〇	二・〇〇	—	一・七〇
	鑄造工		二・〇〇	一・七〇	一・八五	二・〇〇	一・七〇	一・八五	二・〇〇	一・七〇	一・八五	二・〇〇	一・七〇	一・八五
	鍛冶工		二・二二	一・七〇	一・九六	二・二二	一・七〇	一・九六	二・二二	一・七〇	一・九六	二・二二	一・七〇	一・九六
化學工業	陶器工		二・五〇	・五〇	一・五〇	二・五〇	・五〇	一・五〇	二・五〇	・五〇	一・五〇	—	・八〇	二・〇〇
	煉瓦製造		二・〇〇	一・三三	一・六五	二・〇〇	一・三三	一・六五	二・〇〇	一・三三	一・六五	二・〇〇	一・三三	一・六五
	漆器(塗師)		二・〇〇	一・五〇	一・八五	二・〇〇	一・五〇	一・八五	二・〇〇	一・五〇	一・八五	二・〇〇	一・五〇	一・八〇
飲食品工業	釀造 清酒	賄付	一・五五	・九〇	一・三〇	一・六〇	・九〇	一・三〇	一・六〇	・八〇	一・三〇	一・六〇	・八〇	一・三〇
	釀造 醬油	賄付	一・五〇	・九〇	一・三〇	一・五〇	一・二〇	一・三〇	一・五〇	一・二〇	一・三〇	一・五〇	一・二〇	一・三〇
	氷砂糖 男		二・〇〇	一・二〇	一・四五	二・〇〇	一・二〇	一・四五	—	—	—	—	—	—

飲食品工業	氷砂糖 女		・九〇	・七〇	・八五	一・〇〇	・七五	・八〇	—	—	—	—	—	—
	製粉小麥	賄付	一・七〇	一・二〇	一・三〇	一・七〇	一・二〇	一・三〇	一・七〇	一・二〇	一・三〇	一・七〇	一・二〇	一・三〇
	和菓子製造	賄付	一・六七	・五〇	一・〇〇	一・六七	・五〇	一・〇〇	一・六七	・五〇	一・〇〇	一・六七	・五〇	一・〇〇
	雜菓子製造	賄付	一・〇〇	・五〇	・七〇	一・〇〇	・五〇	・七〇	一・〇〇	・五〇	・七〇	一・〇〇	・五〇	・七〇
特別工業	活版 植字		二・二〇	一・三二	一・六五	二・二〇	一・三二	一・六五	二・二〇	一・三二	一・六五	二・一五	一・二九	一・六一
	活版 文選		一・六五	一・一〇	一・三二	一・六五	一・二〇	一・三二	一・六五	一・一〇	一・三〇	一・六一	一・〇八	一・二九
	石版		二・五〇	二・〇〇	二・二二	二・五〇	二・〇〇	二・二〇	二・五〇	二・〇〇	二・二〇	二・五〇	二・〇〇	二・二〇
	製本		二・〇〇	一・五〇	一・八〇	二・〇〇	一・五〇	一・八〇	二・〇〇	一・五〇	一・八〇	二・〇〇	一・五〇	一・八〇
	提灯		二・〇〇	一・四〇	一・七〇	二・〇〇	一・四〇	一・七〇	二・〇〇	一・四〇	一・七〇	二・〇〇	一・四〇	一・七〇

製作工業

洋服仕立		二・〇〇	一・二〇	一・六〇	二・〇〇	一・二〇	一・六〇	二・五〇	一・五〇	二・〇〇	二・三〇	一・五〇	二・〇〇
製靴		二・〇〇	一・五〇	一・八〇	二・〇〇	一・五〇	一・八〇	二・〇〇	一・五〇	一・八〇	二・〇〇	一・五〇	一・八〇
下駄		二・〇〇	一・三八	一・七九	二・〇〇	一・三八	一・七九	二・〇〇	一・三八	一・七九	二・〇〇	一・三八	一・七九
製綱		二・〇〇	一・〇〇	一・五〇	二・〇〇	一・〇〇	一・五〇	二・〇〇	一・〇〇	一・五〇	二・〇〇	一・〇〇	一・五〇
製材		二・〇五	一・三八	一・八〇	二・一五	一・四五	一・九〇	二・一八	一・四八	一・九三	二・二五	一・五二	二・〇〇
製函		二・〇〇	一・三八	一・八〇	二・一五	一・四五	一・九〇	二・一八	一・四八	一・九三	二・二五	一・五二	二・〇〇
指物		—	—	二・四〇	二・七〇	—	二・七〇	—	—	二・七〇	—	—	二・六六
疊刺		—	—	二・五〇	—	—	二・五〇	—	—	二・五〇	—	—	二・四二
製網女工		一・一五	・五〇	・七六	一・五四	・六八	一・〇二	—	—	—	—	—	—
麻眞田女工		・八〇	・五〇	・七〇	一・〇二	・六三	・八七	—	—	—	—	—	—
毛筆製造		三・五〇	一・五〇	二・〇〇	二・五〇	一・五〇	二・〇〇	—	—	—	—	—	—

土木建築業

大工		—	—	二・五〇	—	—	二・八〇	—	—	二・八〇	—	—	二・七三
左官		—	—	二・六〇	—	—	二・八〇	—	—	二・八〇	—	—	二・七三
石工		—	—	三・〇〇	—	—	三・〇〇	—	—	三・〇〇	—	—	三・〇〇
ペンキ塗		—	—	二・八〇	—	—	三・〇〇	—	—	三・〇〇	—	—	二・九一
瓦葺		—	—	三・七〇	—	—	三・五〇	—	—	三・五〇	—	—	三・五〇
屋根葺		—	—	三・五〇	—	—	三・五〇	—	—	三・五〇	—	—	三・五〇
煉瓦積		—	—	二・八〇	—	—	三・〇〇	—	—	三・〇〇	—	—	二・九五

鳶人夫	其他 日雇 男	日雇 女	庭師	電氣工夫	仲仕(陸)	下男	下女
						月給	仝
―	一·八〇	一·〇〇	―	二·七四	三·〇〇	三〇·〇〇	一八·〇〇
―	一·五〇	·七〇	―	·六〇	二·〇〇	一八·〇〇	一二·〇〇
二·四〇	一·六〇	·八〇	二·五〇	一·五三	二·五〇	二五·〇〇	一五·〇〇
―	二·〇〇	一·〇〇	―	二·七七	三·五〇	三〇·〇〇	一八·〇〇
―	一·五〇	·七〇	―	·六九	二·〇〇	一八·〇〇	一二·〇〇
二·七〇	一·八〇	·八〇	二·八〇	一·四八	三·〇〇	二五·〇〇	一五·〇〇
―	二·〇〇	一·〇〇	―	二·七〇	三·五〇	三〇·〇〇	一八·〇〇
―	一·五〇	·七〇	―	·七九	二·五〇	一八·〇〇	一二·〇〇
二·七〇	一·八〇	·八〇	二·八〇	一·五〇	三·〇〇	二五·〇〇	五·〇〇
―	―	―	―	二·六九	三·〇〇	三〇·〇〇	一八·〇〇
―	―	―	―	·八一	二·〇〇	一八·〇〇	一二·〇〇
二·六五	一·八〇	·八〇	二·七三	一·六五	二·四一	二五·〇〇	一五·〇〇

教育宗教

教育機關…學級數と兒童數…秀才教育施設…宗教心の陶冶…神社と寺院…古建築………

我が豐橋市の教育は輓近著しく進歩發展の域に達したのであるけれども一般の狀況に就き殊に施設上の事に關しては之を大勢の上より觀察するならば未だ到底滿足する事は出來ないのである、目下市內には縣立豐橋中學校、市立高等女學校、市立商業學校、私立豐橋商業學校並に一昨年五月市外下川村に開校された豐橋第二中學校を始め豐橋高等小學校、岩田尋常高等小學校、花田尋常小學校、八町尋常小學校、新川尋常小學校、東田尋常小學校、松葉尋常小學校、狹間尋常小學校、松山尋常小學校の九小學校と昨年四月設置された商業專修學校、女子商業專修學校、中部公民學校、東部公民學校、裁縫專修學校と此の外豐橋裁縫女學校、豐橋松操女學校、豐橋實踐女學校、盲啞學校、幼稚園、市外小池の豐橋和洋裁縫女學校等の私立學校が設けられて居る。此の外に市立圖書館、私立安藤動物園あり更らに教育關係の事業を企劃實行し又は直接教育の研

究を目的とする市教育會並に教員組合會其他修養と研究を目的とする青年團とがある。縣立市立の中等學校及特種の學校を除いて以上公立小學校の學級數は尋常科百六十八、高等科二十一學級、兒童數一万八百九十八人で之を男女別にすれば男五千五百六十八人女五千三百三十八人而かも年々增加する兒童は著しく、既設の校舎は忽ち狹隘を告げ年次校舎の增設を行つて居る有樣である。青年團は漸次良好なる發達を見るに至り殊に大正十四年開設された青年訓練所は青年教育上至大の効果を修めつゝあり。

次に財團法人豊橋育英會は昨年十月二十六日設立許可を得將來有爲の人材を養成する爲め、廣く育英資金を募つて學資の關係上廢學にならんとする者に貸費補給を爲し、更に進んで右補給生及豊橋出身の學生の爲に全國六大都市に寄宿舎を設置し各自の負擔を減じて向學の便を圖るべく目下計畫を進めてゐる。其他生活の改善を高唱し社會に貢獻する所極めて大なるものがある。其の外教育會、水練會、少年野球協會を始め幾多の教育及學術研究會が行はれ何れも相當効果を收めてゐる。

次には宗教方面であるが豊橋市民の宗教心は果して如何に陶冶されてゐるであろうか茲に之を具体的に述ぶる事は却々困難であるけれども比較的正しい批判力の下に自由信仰の

態度を持つてゐる樣に見受けられるのは何んとなく嬉しい感じを起させる。而して現今市内に於ける神社の數は三十六社で其の內縣社が二社、鄉社が三社、村社が十六社、無格社が十五社、尙寺院は總て六十一ヶ寺之を宗派別にすると曹洞宗二十二ヶ寺、淨土宗二十ヶ寺、顯本法華宗二ヶ寺、眞言宗五ヶ寺、天臺宗一ヶ寺、臨濟宗三ヶ寺、眞宗七ヶ寺と外に眞宗大谷派本願寺別院の一ヶ所で其他神道教會三十ヶ所、佛道教會、仐說教所十一ヶ所、基督教會五ヶ所と云ふ狀態である。然し飽海時代即ち鎌倉期以前に於ける神戶（今の豊橋地方を云ふ）のものとしては中八町縣社神明社、羽田御厨のものとしては湊町の鄉社神明社、並に薑御園のものとしては東田町の鄉社神明社などが顯著なもので、尙飽海時代に創立された神社には關屋町縣社吉田神社、東八町村社八幡社、花田町鄉社八幡社、岩崎町村社日吉神社、次て岩田町村社神明社、魚町村社安海熊野神社、新錢町村社白山比咩神社、岩崎町村社鞍掛神社の八社あり、寺院には西竺寺、妙德寺、正琳寺等があつたけれど多くは既に廢滅に歸し今日遺跡の殘つてゐるのは獨り正琳寺のみである。

又建築の最も古いものを謂へば寛文元年の建設に係る龍拈寺の鐘樓、次に延寳二年の建築で新錢天神社の拜殿、夫れから貞亨二年で神宮寺の本堂、元祿二年で龍拈寺の觀音堂

仝六年で龍拈寺の三門、仝七年悟眞寺の本堂、十四年神宮寺の三門、仝末年で淨圓寺の庫裡などである。淨圓寺の本堂も元祿以前の樣に聞へられるが如何んせん明確でない、外に神宮寺の護摩堂は寛永二十年、別院の鐘樓は仝二十一年の建築であるが何れも後世の修繕が甚しく原形を殘して居る部分は少ない樣に考へると同時に之を純の藝術として誇るに足るものは殆んどない。

○豊橋市立各學校

（昭和三年四月末調）

校名	學級數	教員數 男	教員數 女	教員數 計	生徒（兒童）數 男	生徒（兒童）數 女	生徒（兒童）數 計	昭和三年三月卒業者
商業學校	一八	三五	—	三五	八一九	—	八一九	七六
高等女學校	一七	一八	一一	二九	—	八二三	八二三	二一九（本科一八九 補習科三〇）
豐橋高等小學校	二二	一八	八	二六	七五六	四三六	一・一九二	五四二
岩田尋常高等小學校	一三	一二	四	一六	三二五	二八〇	六〇五	八四
東田尋常小學校	一四	一一	五	一六	四四六	四三九	八八五	一二八
八町尋常小學校	二四	一七	一〇	二七	六一七	六六一	一・二七八	二二一
松葉尋常小學校	二四	一九	八	二七	七〇三	七二九	一・四三二	二三八
花田尋常小學校	二五	一七	一〇	二七	七四八	七四六	一・四九四	二一八
狹間尋常小學校	二三	一七	八	二五	五七六	六〇三	一・一七九	二一四
松山尋常小學校	一八	一四	六	二〇	五五五	五五二	一・一〇七	一六三
新川尋常小學校	二七	二〇	九	二九	八三四	八九二	一・七二六	二七八
商業專修學校	四	一三	—	一三	八二	—	八二	六
女子商業專修學校	二	八	一	九	—	四九	四九	一二
中部公民學校	二	九	—	九	八八	—	八八	三
東部公民學校	三	四	—	四	三三	—	三三	三
裁縫專修學校	四	五	三	八	—	一七五	一七五	一〇

○豊橋市內私立各學校幼稚園

校名	學級數	教員數 男	教員數 女	教員數 計	生徒（兒童）數 男	生徒（兒童）數 女	生徒（兒童）數 計	昭和三年三月卒業者
豐橋商業學校	九	一八	—	一八	四一六	—	四一六	七九
豐橋裁縫女學校	五	五	六	一一	—	三五〇	三五〇	一八〇
豊橋松操女學校	四	五	五	一〇	—	一九八	一九八	五〇

豊橋實踐女學校	六	五	五	一〇	｜	二六九	二六九	三〇
豊橋盲啞學校	九	九	二	一一	五九	三五	九四	二〇
豊橋幼稚園	五	｜	五	五	七三	六一	一三四	七〇
旭幼稚園	二	｜	二	二	一八	一六	三四	二〇
小百合幼稚園	二	｜	園長 保姆 二一	三	二六	二一	四七	一四
豊橋看護婦講習所	一	二	一	三	｜	七	七	八
助産婦看護婦養成所	三	七	｜	七	｜	五二	五二	一八
和洋裁縫女學校	三	七	四	一一	｜	一〇〇	一〇〇	三六

○縣立學校

校名	學級數	教員數	生徒數	昭和三年三月卒業者
豊橋中學校	二〇	四三	九一九	一五〇
豊橋第二中學校	九	一九	四一五	｜

○圖書館

館名	館員數	藏書册數	建物坪數	敷地坪數	昭和三年度經費豫算	所在地
豊橋市立圖書館	二	一九・五一八	二〇二・三八	一・三六八	五・三一五	花田町字守下

○動物園

園名	主ナル動物	所在地
私立安藤動物園	蒙古産大虎、駱駝、大熊、川獺、綿羊、大蛇、火喰鳥、狼、ペリカン鳥	花田町字守下

○神社

神社名	社格	所在地
吉田神社	縣社	關屋町
神明社	仝	中八町
神明社	鄉社	東田町字姜鄉
神明社	仝	湊町
八幡社	鄉社	花田町字齋藤
白山比咩神社	村社	新錢町
熊野神社	仝	飯村町字本鄉
八幡神社	仝	東八町

神社名	社格	所在地
神明社	村社	神明町
神明社	仝	瓦町字通裏
松山神社	仝	花田町字松山
素盞嗚神社	仝	花田町字中鄕
八劔神社	仝	花田町字西鄕
諏訪神社	仝	中柴町
鞍掛神社	仝	岩崎町字森下
安海熊野神社	仝	魚町
談合神社	仝	談合町
八幡神社	仝	岩田町字西鄕中
日吉神社	仝	岩崎町字坂尻
神明社	仝	花田町字石田
神明社	仝	岩田町字屋敷田
天白社	無格社	神明町
稻荷神社	無格社	東田町
白山神社	仝	三ノ輪町
金刀比羅神社	仝	吉屋町
素盞嗚神社	仝	飽海町
稻荷社	仝	旭町
秋葉神社	仝	船町
素盞嗚神社	仝	本町
大巳貴社	仝	新川町
道知邊稻荷社	仝	東田町
素盞嗚社	仝	花田町字稻場
秋葉神社	仝	東田町
琴平神社	仝	岩田町
天神社	仝	新錢町
豊城神社	仝	東田町

○寺院

寺院名	宗派	所在地
龍拈寺	曹洞宗	吉屋町
日信院	仝	仝
悟慶院	仝	仝
盛涼院	仝	仝
長養院	仝	仝
花谷院	仝	中世古町
喜見寺	仝	新錢町
賢養院	仝	上傳馬町
興德寺	仝	仝
西光寺	仝	手間町
長全寺	仝	花田町
正林寺	曹洞宗	花田町
常昌院	仝	瓦町
全久院	仝	東田町
知光庵	仝	飯村町
清晨寺	仝	仝
祥雲寺	仝	岩田町
一月院	仝	仝
西福寺	仝	仝
龍岩院	仝	岩崎町
東昌寺	仝	三ノ輪町
福恩寺	仝	向山町

龍運寺	淨土宗	船町
悟眞寺	仝	關屋町
西禪院	仝	仝
三味院	仝	仝
樹松院	仝	仝
龍與院	仝	仝
觀音寺	仝	仝
專稱軒	仝	仝
勢至軒	仝	仝
竹意軒	仝	仝
法藏院	仝	仝
東高院	仝	仝
善忠院	仝	仝
全宗軒	仝	仝
稱名院	淨土宗	松葉町
觀音院	仝	中世古町
清源寺	仝	花田町
淨慈院	仝	仝
太蓮寺	仝	東田町
源立寺	仝	岩田町
寶形院	眞言宗	花田町
大聖寺	仝	仝
青龍寺	仝	飽海町
清寶院	仝	中世古町
不動院	仝	瓦町
淨圓寺	眞宗	花園町
正琳寺	仝	仝
蓮泉寺	仝	仝

應通寺	眞宗	花園町
仁長寺	仝	仝
願成寺	仝	東田町
唯心寺	仝	花田町
眞宗大谷派本願寺別院	仝	花園町
妙圓寺	顯本法華宗	清水町
本門寺	仝	東田町
神宮寺	天臺宗	紺屋町
臨濟寺	臨濟宗	東田町
吉祥寺	仝	飯村町
壽泉寺	仝	瓦町

○神道教會

教會名	所在地
金光教會豐橋教會	松葉町
大社教分院	東田町
御嶽教天地教會說教所	仝
御嶽教天地教會本部第二號稻荷教會	仝
御嶽教會日ノ出教會	花田町
御嶽教所屬神成教會愛知縣一等支部豐三教會	東田町

教會名	所在地
御嶽教神恩講社	花田町
御嶽教中央普寬教會	東田町
神理教豐橋教會	花田町
神理教東海分院	東田町
神理教御嶽教會	旭町
神道修成派教務支局	東田町

扶桑不動教會總本院	花田町	天理教山名大教會引佐分教會豐橋城宣教所	旭町
天理教名京教會豐橋支教會	仝	天理教山名大教會引佐分教會豐橋市宣教所	花田町
天理教南海大教會宮濱分教會渡會支教會宮濱宣教所	仝	天理教名京大教會豐橋支教會	仝
天理教南海大教會東愛分教會愛花宣教所	仝	天理教名京大教會豐花宣教所	仝
天理教名京大教會豐橋支教會豐中宣教所	中柴町	天理教甲賀大教會中根分教會邑樂支教會愛豐宣教所	仝
天理教大教會東三分教會愛一宣教所	花田町	天理教甲賀大教會岐美分教會美濃支教會豐府宣教所	仝
天理教南海大教會紀尾分教會愛豐宣教所	西新町	天理教南海大教會東愛分教會愛旭宣教所	旭町
天理教會南海大教會東愛分教會愛靜支教會	中世古町	天理教南海大教會東愛分教會豐橋宣教所	花田町字東郷
天理教會名京大教會徭津分教會日力宣教所	飽海町	天理教甲賀大教會蒲生分教會成岩支教會東三宣教所	向山町

○佛道教會

教會名	所在地	教會名	所在地
本派本願寺豐橋教院	西八町	曹洞宗設教所	花田町
花園教會	瓦町	高野山大師教會支部	瓦町
仝	飯村町	高野山大師教會豐橋花田支部	花田町

高野山大師教會櫻井寺第二支部	船町	日蓮宗教會所	松葉町
高野山大師數會豐稲市東新支部	東新町	日蓮宗豐橋教會所	花田町
眞言宗醍醐派少社豐成組教會所	吳服町		

○神佛道以外各教會

教會名	所在地	教會名	所在地
豐橋ハリストス正教會	中八町	日本基督教豐橋教會	旭町
日本メソヂスト豐橋教會	仝	普及福音教會	仝
日本聖公會豐橋昇天教會	新川町		

社會事業

研究調査項目…社會的疾患…………
都市改良の根本義…共同責任の觀念……

歐州戰亂以來世界思潮は急激なる變化を來たし社界政策の氣運頓に勃與し諸般の行政一つとして此の問題を度外に置く事が出來なくなり曩に社會事業調査員會も組織され各種の社會施設に關し其の研究實行に着手したのである。されど所謂其社會事業なるものの範圍は。實に廣範多岐であつて今俄かに凡ゆる方面に亘り之が研究施設を爲すを得ないから逐次其の充實を期せんとする摸樣である。市は行旅病者、仝死亡者、窮民及軍事の救護や罹災救助は之迄よりも一層完全にすると共に人事相談失業者の救濟及細民調査と隣保同化事業尚ほ進んでは無料診療所なども追々實施する方針を採り、目下着々調査の歩を進めて居る。社會事業は總て事實に立脚しなければならない、現狀を曝露して識者の考慮を促すのは今日の最も急務とする處である社會狀態の調査研究は從來余り重きを置かなかつたのであるから將來大に此の方面に努力を拂つて貰はなければならない社會組織の缺陷から來る

落伍者の數が物質文明の進歩に伴ひ年と共に激增の勢を示し、且つ其の多くは集團を成して所謂細民地區なるものさへ形成するに至るのである。社會的疾患は之から生ずるので之を治療する事は一面には各個人存在權の人道上の要求に合致し他面には社會自衞又は社會向上に缺くべからざる處で又都市改良の根本義であらねばならぬ。此の意味からして各種事業の施説計畫中失業者救濟に關する職業紹介所は豊橋市役所内に開設し其成績大に見るべきものがある。一昨年市役所内に設けられた方面委員豊橋方面事務所の顧問は豊橋市長で十二名の方面委員は關係官公吏と提携して一般的生活狀態要救護者の狀況調査と既存社會的施設の活動を即成し新に施設を要する事業等を研究して居る。併し此外小住宅の建設保育所、簡易食堂、公設市場、公設質屋等の社會的施設に着手せられん事は望ま欲しく思ふ殊に最も注意すべきは市内に於ける救濟施設の助成監督であつて今其の既設事業を分類すれば育兒感化及托兒人事相談等を兼ねて居る東田の有隣財團と豊橋盲啞學校など其の主なるものであるが、尚豊橋佛敎會施設の無料宿泊所も好成績を擧て居る。之等は周到なる社會現象並に其の原因の調査に基き統制的有機組織に依つて一齋に其の歩を進め共同責任の觀念に依つて根本的に之が改善向上を企圖しなければならぬと思ふ。

土木衛生

地方開發…都市計畫……

輓近豐橋市及接續町村の急激なる人口增加の趨勢並に商業の殷賑工業の隆昌其他市及町村部落を通し蔚然勃興の機運を釀成せる產業の發展に伴ひ、人車の交通、貨物の集散愈々繁劇の度を加へ隨って交通機關の整備改善は蓋し急務中の急務に屬するのである。市當局は之等交通の狀態に鑑み、豐橋市を中心として各道路の改善其幹線の連絡並に主要鐵道停車塲を連絡する主要道路の改善に關しては銳意之を企圖すると共に地方開發に必要なる道路の改修を計畫し以て時運に伴ふ施設を完ふせん事を頻りに硏究調査を重ねつゝあつたがなつたが、上水道は總費額金三百五万餘圓の繼續費を大正十五年六月三十日市會で可決され一昨年七月十八日起工式を擧行したが其の工事の概要を示せば、豐川の伏流水を水源として豐橋市を距る約一里餘の八名郡下川村西下條三ノ下地先の河底に集水埋渠を構築し送水喞筒井により東南三十三町を距る仝郡石卷村大字多米の濾過池に揚水し淨水となし高揚喞筒で配水池に送り同所より市內では岩崎町と岩田町飯村町の一部を除き隣町下地町大字下地の市街地を成せる一部の給水區域に送り人口十六万人に給水し將來新に形成さるる市街地の給水は擴張計劃に待つとのことである。

名勝舊蹟

今橋城…戸田今川の爭鬪…家康と織田氏…

城主の交代…最後の藩主…吉田城址……

今の豐橋を吉田と稱へたのは天文年間から明治二年迄で、其以前は今橋と謂つた。當時三河の國の守護は吉良氏であつたが、文明の頃に至つて牧野古白が此の今橋に築城したのである然るに永正三年八月駿河の今川氏自ら軍を率ゐて今橋城を攻めたのであつた。古白は城に據って固守する事六十餘日、惡戰苦鬪を續けたけれど力遂ひに及ばすして自殺するに至つた。此に於て城は一時田原の城主戸田彈正憲光の一族戸田金七郎の有となつたのであつたが其後大永の始め頃に至って、古白の遺子傳左衛門成之と傳藏信成の爲めに再び取り返されたのである。程なく成之は隱居して信成其後を襲いたが享保二年岡崎の松平清康

大擧して此城を襲來し、信成は一族郎黨と共に下地に於て戰つたが運拙くして遂ひに戰死し、城は一時松平氏の有に歸した。然るに天文四年吉田時代に入り清康の守山崩れ以後は復び戸田金七郎の有となり爾來十有餘年間舟形山一帶の山脈を境界として、戸田今川両氏の爭闘が絶へなかつたのであるが、天文十五年遂ひに今川義元の範圍に入つたのである。處が永緑三年五月桶狹間の戰ひに於て義元戰死した、其時德川家康はまだ松平元康と云つて今川氏の味方であつたが、其翌四年に至つて義元の子氏眞との間に不和を生じ隣交は斷絶となつたのである。

其頃吉田城には今川氏の將小原肥前守鎭實が居つて、東三河に於ける諸將の人質を此城に預つて居たが、家康に屬したものは悉く龍拈寺口と云ふ處で殺して仕舞つた。家康が岡崎から大擧して此の城を攻めたのは永緑七年の初めであつたが其頃今の豐橋市の東郊に當る仁連木にも城があつて戸田主殿介重貞が居つた、此重貞も早くから家康に心を寄せて居たのであつたけれど何分にも其母が人質として此城に容れてあつた爲め反旗を飜す前に先づ母を奪ひ戻さなければならぬと考へ種々工夫した末に首尾よく目的を達したのである、家康は翌八年鎭實を亡ぼし此城を酒井左衞門尉忠次に與へたのであつた、斯くて程なく今川

氏は衰へ三河は勿論遠江全國までも德川氏の有に歸するに至つたが、其代り今度は追々甲州から武田氏の侵入が始まつたのである。即ち元龜三年十二月信玄軍を率ゐて遠江と三方ヶ原に於て戰つたのであつたが、此合戰は德川氏の大敗となつた、信玄は勢に乘じ更らに三河に進入し、天正元年正月南設樂郡の野田城を陷れたけれど、此の戰の爲めに逝去するに至つたのである。然るに天正三年四月其子勝頼大兵を擧げて二連木城を襲ひ續ひて吉田城に迫つた、夫れから長篠の合戰となつたのであるが、今度は武田方の大敗となり、之れが原因で天正十年三月織田信長と家康との爲に其の根據を侵略されて、武田氏全く滅亡するに至つたのである。其年六月信長は本能寺に於て明智光秀に殺され、之れより秀吉の舞臺となつた、秀吉と家康は小牧山で一度戰を交へたけれど程なく相和し、天正十八年秀吉が小田原に北條氏を征伐した時にも家康も國を明けて秀吉に捧げ自分も之に從軍した、其役の終つた處で家康は秀吉の爲めに關東八州へ移封せられたのである。此時忠次は既に隱居し其子家次が相續して居たが之れも家康に從つて上州碓井の城に移つた。家次の後へ來たのは池田三左衞門輝政で牛久保、新城、田原の三城も其配下に屬し知行十五萬二千石を領する事となつた。仁連木城は此時廢止されたのである。然るに慶長五年關ヶ原の合戰後

輝政は功を以て播州姫路五十二萬石に封ぜられ、吉田城を去り其後を繼いだのは松平玄蕃頭家淸であつた。封祿三萬石其の後慶長十七年に松平主殿介利忠、寛永九年に水野隼人正忠淸、仝十九年に水野監物忠善と數々城主の更迭があつたが祿高は矢張り多い處で四萬五千石位のものであつた。正保二年小笠原壹岐守忠知城主となつたが、夫れから長矩、長祐、長重と四代の間繼續した、小笠原氏に次いて元祿十年久世出雲守重之が來たが、之れも在城十年にして寛永二年牧野備前守成春と交代した。成春の次は其子大學成央で牧野氏に代つて此の地の城主となつたのは大河内氏である、大河内氏は正德二年信親の時代に初めて古河から移封されて來たのであるが、享保十四年一度濱松に轉封になり、之れに代つたのが松平豐後守資訓で之れも寛永二年になつて再ひ大河内氏と交代になつた、封祿七万石當時大河内氏は信親の子信復の代であつたが、夫れから信禮、信明、信順、信寶、信璋を經て信古に至つたので、之れが最後の城主で吉田城址は今の步兵第十八聯隊の營舍がある處である。

仁連木城……其來歷と宗光・重貞の戰死……

天正の戰……康長の戰功……………

露光量違いの為重複撮影

愛知縣田原町

醬油釀造業

野村重兵衞

電話 本店 一〇番
第二工場 二一番

振替口座東京九九三二番

萬漬物

珍味食料品

卸小賣 漬物 佃煮 各種 製造

八丁味噌 發賣元

久

豊橋市札木大手通り

名物屋漬物店

電話六九五番

露光量違いの為重複撮影

愛知縣田原町

醤油釀造業

野村重兵衛

電話 本店一〇番
第二工場二一番

振替口座東京九九三二番

萬漬物
珍味食料品

八丁味噌
卸小賣
久
發賣元

漬物佃煮各種製造

豊橋市札木大手通り

名物屋漬物店

電話六九五番

ダルマ印米粉
三星印米粉
(奈)うどん
(奈)素麺
(奈)ひやむぎ
(奈)平麺

(大)
大森俊治
豊橋市西八町八十八番地
電話一九二番
振替口座東京一四六四二番

専属工場
(奈)
製麺製粉場
豊橋市大手通リ松山
電話一四五〇番

廻轉式電化
ジョーパン製造元
松盛堂
豊橋市廣小路貳丁目
電話一二三一番

露光量違いの為重複撮影

陸軍御用

カゴメ✡サイダー

飲料水各種製造

近藤商店

豊橋市松山

電話七五七番

最上味噌醤油

登録商標 大

味噌醤油製造業

大山銀蔵

豊橋市花園町

電話五一〇番

露光量違いの為重複撮影

陸軍御用

カゴメサイダー

飲料水各種製造

近藤商店

豊橋市松山

電話七五七番

最上味噌醤油

登録 大 商標

味噌醤油製造業

大山銀蔵

豊橋市花園町

電話五一〇番

創業明治十八年

神代鍬印
多木肥料

株式會社 多木製肥所

東三一手特約店

豐橋市關屋町

今泉福太郎商店

電話四二七番
振替口座 東京九八四一番 名古屋一〇一〇五番

豐橋電氣株式會社

豐橋市花田町字東郷一二ノ一

電話六九三番

一般冷藏業

大正製氷冷藏株式會社

豐橋市湊町一六
電話一三五一番

東田の北に朝倉川と云ふ小川が流れて居る。之は八名郡との境界をなすもので蟬川の下流であるが、此川に臨める高地に仁連木城の舊址がある。此城の來歷に就いて種々なる說があるけれど、明應年中戸田彈正左衞門尉宗光の築いたのであると云ふのが事實らしい宗光は初め碧海郡上野の城に居たが、寛正六年五月德川家康から六代目の祖に當る松平和泉守信光と共に室町幕府の命を受けて、三河國内の一揆を平定した事は蜷川親元の日記などにもあつて有名な話である。宗光は其後居を渥美郡の老津に移し、更らに一色氏の後を襲いで、永正十三年の頃田原に根據を構へたが、其後更らに時を得て此仁連木にも城を築き田原をば其子憲光に委ねて、自分は此處に移つたのであるが、多分明應初年頃であると思ふ。宗光卒去の後は憲光及其次男吉光も亦此處に居城した事實がある。其後は此城も暫らく放棄されてあつた樣に考へられるが、天文十年に至つて憲光の曾孫に當る丹波守宜光が牛窪の加治村から之を再興したのである、永祿七年吉田城から其母を奪ひ返した主殿介重貞は即ち其子であつたが、重貞は其の年の十一月吉田の城攻めに於て戰死したので、其後を弟の甚平忠重が襲ひだ、然るに之れも亦た永祿十年五月病沒したのである、當時其子の康長はまだ六歲の子供であつたから、一族の戸田傳十郎吉國と云ふ人が之れを扶けて陣代

となつた。即ち元亀三年武田信玄の襲來に方つても、天正三年五月武田勝頼の來攻に際しても共に吉國後見の時代であつたが、其家臣等の奮闘によつて天正の戰には敵首十八級を得以て家康の臺覽に供したと傳へられて居る。之より先康長は松平の姓を賜はり、家康の仝母妹久松氏に配したのであるが、後慶々德川氏の爲に戰功を立て、天正十八年家康の關東移封と同時に武藏國東方一萬石に封せられたのである。爾來仁連木城は遂に廢城となつて今日に至つたのであるが、今は大口喜六氏の所有地となり、一部農園を經營して居る。

豊川の清流…古名の色々…橋梁移轉……
地子御免…貨物の運上…舊幕時代の湊…

豊橋の架つて居る川が即ち豊川である。其の源を北設樂郡段戸山に發し南流して段嶺村を過ぎ、作手川を容れて寒狹川となり南設樂郡長篠村に至り三輪川を合し、更に西南に流れて寶飯、八名、渥美、豊橋、三郡一市の界を爲し前芝村に至つて渥美灣に入るのであるが、延長凡そ十七里である。此河の古名を飽海河と謂ひ、後吉田川とも言つたが、近世一名姉川の稱があつた。併し此名は餘り世に知られて居らぬ昔飽海郷と寶飯郡と渡會郷との間に志香須賀と云ふ豊川の渡しがあつた。地形の變遷が甚だしいので今其位置が明かでない元は此の名を然菅と書いたが中世からは白菅の字を誤用したるものと思はれるが其後又た更らに鹿菅などとも書かれて居る。豊橋を渡れば寶飯郡の下地町である、橋の此方が市内の船町である。此町は池田輝政の橋梁移轉に依つて漸次發展を來たしたものであるが、船乘又は運送渡世の者が多かつたので、慶長五年關ヶ原の役には城主輝政の命を受けて伊勢の津又は松坂などへ往來したのである。夫れか縁故となつて爾來引續き藩主から船役を命せられ、地子御免の上、此河に輸入する貨物の運上を取る事をも認められて居たのである。而かも舊幕時代には此處以外豊川沿岸の地に湊を許されなかつたから。伊勢又は尾張地方に交通する船舶は常に橋下に輻輳して、船町の繁昌は著しかつたものであつた。

豊橋名代行事

煙火………鬼祭

元祿時代と謂へば誰も知らぬものはない江戸全盛の時であるが、其𤈦奢の風は地方にまでも流れて來たので、彼の吉田の花火なども此頃から盛大になつたのである。勿論此花火は關屋町縣社吉田神社の祭禮に於て行れたのであるが、元同社の神官であつた石田家の記

錄に依つて見ると、初めて建物(花火の一種)の大きなものが出來たのは元祿十三年の事で長十三間幅三間半で其費用は廿四両か丶つたとしてある。舊幕時代には祭禮中本町の通行を禁じ市街に於て打揚げたのであつたが、今は社前と豐川水上に於て行つて居る。又同祭禮に要する本町の山車に幕の出來たのも元祿十六年の事であるとしてあるが、萱町から出る笹踊の裝束も元は木綿の浴衣であつたのを元祿に入つて絹更紗染に改め、其十七年に至つて緞子のものが出來た樣子である。それのみならず右の記錄の中には其の頃笹踊を囃す爲めに大太鼓や小太鼓の打手の中に頗る名人の出來たと云ふ事か詳しく記してある。吉田神社の祭例は毎年七月十三、四、五日の三日間であるが、吉田時代の風流を偲ぶ花火や笹踊りは今尙ほ此祭日には盛んに行はれ、天下名代のものとなつて居る。此の外豐橋市に於ける年中行事として主なるものは、中八町縣社神明社の鬼祭である。此社の例祭は毎年二月十四五の両日を以て行はれ、俗に之を鬼祭と稱へて居るが、其式は天狗の面をつけ土烏帽子小具足を着けた武者が赤鬼を追ひ拂ふのである。夫れが濟むと神輿の渡御になる順序で此神事は極めて奇なる祭であると云ふ事である。

附近町村を探ねて

豐川鳳來寺鐵道沿線…豐橋以西…豐橋以東…
牛島方面…八名郡及下地方面………………

我が東三河は古い歴史を有つて居る丈けに、今尙王朝以來の遺蹟を初め室町期即ち群雄割據時代の城壘並に古戰場其他武將の墳墓等が到る處に見受けられるのである、先づ豐川鐵道の沿線では、小坂井町の東端に在る風祭で名高い莵足神社、次には德川氏に葵の紋所が起つたと云ふ由緒のある伊奈城址、牛久保では今川義元並に舊一色城主一色刑部少輔の墓がある大聖寺、山本勘助の墓所で知られて居る長谷寺等があり、尙夫れから程遠からぬ處に牧野民部亟成定の爲めに建立した光輝庵がある。牛久保驛より僅か進むと豐川に達するのであるが、此處には吒枳尼尊天によつて天下に有名な妙嚴寺の稻荷と外に三妙寺の名蹟と縣立蠶業試驗塲豐川支塲とがある。國幣小社砥鹿神社は一宮驛を去る三町許り東方で祭神は大己貴命である、次は長山驛で砥鹿神社奥宮の鎭座する三河第一の高山である本宮山へ此驛から頂上までは五十餘町である、東上驛附近に牛の瀧あり直下六十尺、行路極

めて平坦驛から八丁夏季避暑客極めて多い。野田城驛は笛の名人村松芳休の劉喨たる妙音に誘はれて武田信玄が狙撃せられたる野田城址へは僅かに五町、更らに新城に入り菅沼定盈の墓がある、此の地は豐橋以北の小都會で縣立農蠶學校を始め高等女學校官衙公署があつて商工業亦盛である、豐川鐵道の終点は長篠驛で豐川鳳來寺兩線の接續する所である。大野を經て川合に至る鳳來寺鐵道と海老、田口、津具を經て信州飯田に至る伊奈街道との分岐点で驛前から東三自動車が一日二回まで往復の便がある、此の驛を距る十四町余寒狹川三輪川二流交叉の處に長篠古城址があつて附近一帶は武田、徳川、織田三氏の古戰場である、長篠役は天正三年五月甲斐の武田勝賴が家康の臣奥平信昌を此の城に圍みたるに起因し、此の時鳥居强右エ門の最後は人口に膾炙せる處であつて、其墳墓は今も鳥居驛から一町余の寒狹河畔に存在して居る、其他此合戰に戰死せる甲將馬塲美濃守信房内藤修理亮昌豐山縣三郎兵衛昌景其の他の墳墓は今尚此地を中心として附近に散在し行人をして低回顧眄の情に堪へさらしむる者がある、鳳來寺の舊時を偲ばむとするものは長篠驛から二里余自動車人力車の便によつて山麓に達す鳳來寺驛から下車すれば二十余町山麓から本堂藥師如來迄は九町を登るのである同寺は推古天皇の勅願により僧利修の開創せる處天臺眞宗の

二宗を兼ね極めて古い由緒を有つて居る全山風物總て壯觀を極めたものであつたが數度の火災に逢つて今日舊態を存せず僅かに三門並東照宮祠などは尙昔時の面影を留めてゐる、東照宮は慶安四年の創立で後度々修繕を加へられてゐるが尙明かに徳川初期の樣式を見るべきものである殊に此の山は阿蘇火山脈の終点に位し悉く火山岩で構造され極めて斷壁千仞の奇勝に富んで居る、三河大野驛から行者越に道を取れば鳳來寺で最も近徑で大野橋を渡ると八名郡大野町である此地名勝に富み商工業亦盛なれば驛には設備整ひたるホテルを設け旅客の便を計る町はづれに天神山公園と不動瀧がある此處から山吉田村阿寺迄は二里余りで馬車自動車の便あり飛泉豐で七折の高さ百二十五尺阿寺の七瀧と稱し夏猶寒きを覺ゆる避暑地である。湯谷驛は所謂鳳來峽の中間で三輪川（板敷川）を隔てた對岸は縣道別所街道が坦々として北へのび恰かも耶馬溪を見るが如き風趣をたゝゑて居る川の流れに沿ひ小盆地から湧出づる鑛泉がある之れを鳳液泉と謂ひ萬病に効顯ありさて驛は此處にホテルを經營し旅客をして心行くまで享樂せしむるとの事である。三河槇原驛は鳳來寺山から搬出の山と積まれた木材薪炭製材の饗附近殊に佳景に富み幾多の鳳來峽名所がある此地山深きに平地多ければ都人の別莊地として有望である。三河川合驛は本郷御殿振草を經て信州

新野及飯田に至ると浦川中部を過ぎ久根銅山水窪に至る分岐樞要地点である此驛から凡そ三十町余りで有名なる乳岩に達す鐘乾洞に入れば乳岩大神不動明王の鎭座し鐘乳豊かに下るも嬉しく石門に至れば雄大なる自然の美に打たれ茫然漸く我に返り展望せんか巖層よりなる連峯の雅趣を一眸に收め川合の村落は浮繪の如く眼界に入る春の山を飾る石楠花深山躑躅の咲き亂るゝ麗はしさ夏の納涼秋の紅葉に衣を染むべき勝地此附近に多く詩人墨客の杖を引くべき地である、されば驛に於てホテルを直營し遊覽に便せしむ。

尙舊東海道沿線豐川橋以西では御油驛の縣社御津神社、大恩寺、御油海岸等で。蒲郡は元西郡と蒲形を合せたもので、今では海岸に海水浴場の設けがあり、風光頗る明媚にして夏季に入ると各地から來り遊ぶ者が却々多い。愛電で豐川を越へ伊奈驛へ入る此附近は伊奈城のあつた處で其の名を知られ愛電、豐川線の分岐点であつて將來を囑目されて居る國府は舊東海道で往昔三河の國府があつた處で同町の白鳥に總社があり八幡村に國分寺と八幡社があつて國府に關係の淺からさるものがある西明寺入口の鷺坂などもよく知られて居る八幡社の社殿は特別保護建造物で有名なものである八幡村より東北二里余りの山中にある財賀寺は聖武天皇の勅願により行基の開創した名刹てある赤坂驛は古來から紅葉の名

所で知られて居る宮路山に近く宮路山は持統天皇の舊蹟であつて山頂の遠望天下に絕し春の蕨狩秋の茸狩に佳く長澤山中本宿は東海道古驛路て古から知られて居る。

次に東海道鐵道沿線を豐橋から東に向へば、二川町の岩屋觀音、高師山、雲谷の普門寺小松原の東觀音寺、鷲津の本興寺が歷史的に世上著聞の場所であるが、殊に岩屋觀音が其最なるものであろう。又一方下地町になると聖眼寺、水神社、大蚊里、正岡、花井寺、古宿大村など比較的史實に富んだ處として指を屈せねばなるまい。夫れから八名郡方面では法言寺、石卷山、石卷神社、本坂峠、嵩山正宗寺、月谷大洞窟等最も名ある處となつて居る。

更らに渥美半島方面に於ては渥美電鐵の沿線高師村に入れば小池驛附近に潮音寺がある曹洞宗に屬し行基の開創せるものと傳へられて居る、此寺の觀音は潮道の觀音と稱し舊來有名なるものである、師團口驛は騎兵第四旅團司令部を始め敎導學校等の所在地であつて明治四十一年十一月第十五師團司令部が此地に置かれて以來著しく發展したのであるが、大正十三年五月軍備縮少により第十五師團司令部を廢止せられ今は第三師團の管下となつて居る串蜊の製造に於て有名なる大崎へは師團口驛より約一里である、芦原驛より十町程で野依毘沙門天へ行く事が出來る、大淸水驛附近には渥美電鐵に於て娛樂場として野球グ

ランドを設け常に試合を催し好球家を喜ばして居る、老津、谷熊、豊島の各驛より多賀壽命殿長仙寺の名刹へ何れも十三町である、此の寺は天平十七年行基の開創で現在の本堂は延寳九年頃の建築である、天白、神戸の各驛を經て田原驛に入ると、此處は明應年間戸田宗光の築いた田原城址等がある田原藩の老臣にして書畫を能くし詩文に長じ、更らに海外の事情に通じたる渡邊華山の墓は仝町城寶寺境内にあつて三宅氏の祖兒嶋高德を祀る縣社巴神社は舊城址の一隅に鎭座ましますのである。又田原藩の執政で火技を研究し造船の法に長じ後擧げられて藩政を掌つた村上藩致の墓も仝町に在つて、片濱海水浴場へは仝町より十八町である。其他神戸神明社、阿志神社、長興寺、泉村鸚鵡石、福江泉福寺、伊良湖岬、石門、村松。豊川河口では牟呂吉田、神野新田、前芝など何れも三河の名所舊蹟として廣く紹介する價値がある、特に牟呂吉田農林省水産試驗場豊橋養魚試驗場の如きは大ひに見るべきものがあると思ふ。

○豊橋市内に於ける民衆娯樂場

所在	座名	電話番號	主ナル目的
吳服町	東雲座	二二三	演劇
花田町字石塚	豊橋劇場	七四一	演劇
上傳馬町	帝國館	二二五	活動寫眞
神明町	豊明館	四一九	仝
松葉町	ニシキ館		仝
西八町	大盛館	五二九	仝
清水町	蝶春座		寄席
上傳馬町	河原座		仝

○豊橋市内諸組合

名稱	所在地	名稱	所在地
三遠玉絲製造同業組合	指笠町	東三醬油同業組合	花田町字石塚
東三生絲製造同業組合	花田町字石塚	豊橋輸出麻眞田工業組合	新川町
東三繭絲問屋同業組合	指笠町	豊橋麻絲同業組合	手間町

豊橋米穀商同業組合	花田町字西宿
豊橋賣藥同業組合	新錢町
豊橋市養蠶同業組合	西八町
東三蠶種同業組合	花田町字手棒
愛知縣豊橋毛筆同業組合	中八町
東三蠶种販賣同業組合	花田町字手棒
三河搾乳畜產組合	新川町
御大典記念豊橋市前田耕地整理組合	中世古町
有限責任東田信用購買組合	東田町
有限責任飯購買販賣組合	飯村町
有限責任豊橋購買組合	岩田町
有限責任三遠革正生絲販賣組合	本町
有限責任豊橋家禽購買販賣組合	手間町
有限責任豊橋信用組合	神明町

財團法人豊橋銀行集會所	中世古町字西ノ又
豊橋疊製造組合	鍛冶町
豊橋麵類商組合	札木町
豊橋漁業組合	關屋町
豊橋呉服太物商組合	花園町
豊橋洋品雜貨組合	札木町
東三酒造組合	松葉町
東三獸肉商組合	手間町
豊橋古着商組合	曲尺手町
豊橋屑物商組合	花田町字狹間
東三繭絲屑物商組合	仝 稗田
豊橋陶磁器業組合	曲尺手町
豊橋藥業組合	本町
豊橋簞笥業組合	湊町

豊橋足袋商組合	松葉町
豊橋旅館組合	花田町字西宿
豊橋質屋業組合	呉服町
豊橋料理業組合	關屋町
豊橋洋物商組合	本町
豊橋酒醬油商組合	湊町
豊橋建築會	旭町字餌指
豊橋銅鐵商組合	鍛冶町
豊橋紙商組合	萱町
豊橋砂糖商組合	萱町
豊橋製菓商組合	新川町
豊橋建具指物商組合	東新町
豊橋洋服商組合	本町
豊橋上傳馬料理組合	上傳馬町

豊橋松葉料理組合	松葉町
豊橋理髮業組合	東田町
豊橋湯屋業組合	中世古町
豊橋靴商組合	西八町
豊橋米穀肥料問屋組合	花田町字小田原
豊橋木材商工組合	寶飯郡下地町
豊橋青果出荷組合	新川町字市南
豊橋飼料商組合	下町
豊橋薪炭商組合	西八町
豊橋魚市塲仲買人組合	魚町
豊橋染物張物業組合	旭町字旭
豊橋中央料理同盟會	札木町
東三生糸製造業組合	花田町字石塚
東三製本業組合	湊町

東三製傘業組合	市外小池
豊橋洋品雜貨足袋商聯合會	札木町
豊橋和服裁縫組合	松葉町
豊橋履物商組合	花園町
豊橋鹽干魚商組合	新川町
三河輪業組合豊橋支部	松葉町
豊橋印刷業組合	西八町
豊橋時計商組合	札木町
三遠玉絲製造同業組合豊橋部落會	指笠町
豊橋銅鐵工業組合	中柴町
豊橋銅鐵金物商組合	萱町
豊橋化粧品小間物小賣商組合	西新町
豊橋火災保險協會	新錢町
豊橋株式現物團	魚町
豊橋蹄鐵工組合	花田町字松山
東三土木築建請負業組合	中八町
豊橋荒物商組合	曲尺手町
豊橋ラヂオ商組合	札木町
豊橋工務組合	花田町字野黒
東三鷄業組合	瓦町
豊橋商友會	市外小池
豊橋煙草小賣人組合	中八町
豊橋川魚問組合	花田町字北新起
豊橋寫眞業組合	札木町
豊橋貸自動車組合	松葉町

○衆議院議員

船町	大口喜六	電話三四三番
中八町	鈴木五六	電話一五六番

○愛知縣會議員

曲尺手町	小山信	電話五一七番
關屋町	河合孜郎	電話一六五番

○豊橋市郡所得調査委員

住所	職業	氏名	電話番號
松葉町	會社員	神野三郎	六二五
旭町字旭		黒柳清次	一、〇五九
曲尺手町	陶器商	小山信	五一七
東新町	玉糸製造業	金子丈作	一五八
關屋町	青果物商	河合孜郎	一、〇二七

本町	繭糸問屋業	河合藤四郎	八 一三 〇八
船町	乾物商	加藤發太郎	四二二
魚町	紙商	齋藤彌八	一、五二四 一三三

○都市計畫愛知地方委員

船町	大口喜六	電話三四三番
仝	服部彌八	同八番

○同臨時委員

中八町	福谷元次	電話二三三番
東田町	今西卓	同七三二番

（市會議員中より選出される六名の委員は改選のため本稿締切までに不明に付掲載見合）

○豊橋市會議員

（當選順）

住所	職業	氏名	電話番號
花田町字大塚	肥料製造業	熊田嘉平	一一一六
花田町字百北	會社員	原田仙二郎	二〇四七
東田町字五反畑	貸座敷業	村田義直	一六四
吉屋町	質屋業	大林勇	
花田町字稗田	會社員	大塲恒治郎	一六〇一
關屋町	肥料商	野澤藤五郎	四二五
上傳馬町	藝妓置屋業	榎山信次郎	一四一
新川町字新錢	醫師	金子本市郎	六四二
關屋町	料理業	遠藤猶次郎	一一二 一一〇五
花田町字松山	綿蒲團商	青嶋忠助	二〇五九
新川町字市南	青乾物商	長尾俊	四八一
向山町字庚申下	玉糸製造業	長畑善藏	一一二四

東田町字西郷	新聞記者	丸地幸之助	二三四
花田町字流川	生糸製造業	内山榮次郎	七二五
花田町字西宿	會社員	内藤太郎吉	
關屋町	會社員	中村爲太	
岩田町字居村	蠶種業	藤田力作	
花田町字城海津	石炭商	白井福太郎	三七六
瓦町字通	土地周旋業	丸地清次	一七三六
新川町字新錢	菓子製造業	柴田新八	一〇〇八
關屋町	旅舘業	石田又一	四四六
瓦町字七反田	貸座敷業	三浦源六	八四二
花田町字間田	材木商	山本一二	五〇五
紺屋町	湯屋業	仲田充治	
西八町	粉類雜穀商	大森俊治	一九二
花田町字松山	清涼飲料水製造業	近藤竹次郎	七五七

松葉町	會社員	榊原瀬一	二一二
花田町字池田	釀造機械商	宮津隆二	
花田町字西宿	繭糸屑物商	松尾幸次郎	八〇五
旭町字餌指	土木建築請負業	小笠原博通	一一七二
瓦町字通	保險代理業	佐藤彌平	一〇五五
花田町字西郷	精練業	彥坂只一	
中世古町字前田	繭糸屑物商	加藤勘吉	一九四六
鍛冶町	金物商	神戸小三郎	三二八
東八町	無職	月岡新治	
花田町字稻塲	農業	山本滿平	二一三〇

○辯護士

事務所	氏名	電話番號
中八町	堀端房一	二八五

中八町		小木曾丈三郎	三一二
中八町		大井伊八	一、九四八
西八町		淺井順次	三〇四
中八町		福井正二	
曲尺手町		三浦久三郎	
中八町		鈴木五六	一五六

○豊橋商工會議所議員

席次	住所	職業	氏名	電話番號
一	札木町	菓子商	山田芳藏	三三六
二	關屋町	石炭商	合資會社杉八商店石炭部 代表者 山田末治	五三七
三	松葉町	繭屑物商	花井丹次	三九〇
四	仝	會社員	神野三郎	六二五
五	花田町字西宿	會社員	內藤太郎吉	二二七
六	西新町	吳服商	鈴木清	二一〇五
八	船町	醬油製造業	服部彌八	八
九	關屋町	肥料商	今泉福太郎	四二七
一〇	東新町	玉糸製造業	金子丈作	一五八
一一	西八町	薪炭竹商	白井淺治郎	三九五
一二	本町	繭生糸問屋業	河合合名會社 代表者 河合藤四郎	三八
一三	旭町字旭	米穀商	近田繁吉	一六七八
一四	曲尺手町	屑物商	合名會社紅久商店 代表者 三浦多吉	七六四
一五	湊町	材木商	大山長平	四六八
一六	魚町	砂糖海產物粉類商	合名會社瀧崎商店 代表者 瀧崎安之助	一六二
一七	花園町	醬油製造業	大山銀藏	五一〇
一八	關屋町	靑乾物鷄卵問屋業	河合孜郎	一六五
一九	萱町	砂糖問屋	福谷藤太良	四
二〇	花田町字池田	生糸製造業	清水熊太郎	九〇四 四八六

二一	仝 大塚	肥料製造業	熊田嘉平	一一一六
二二	中世古町	鐵工業	平石丈三郎	八八
二四	札木町	寫眞材料商	白井勝治	一六八
二五	中八町	會社員	福谷元次	二三三
二六	松葉町	會社員	繭絲周旋株式會社 代表者 富安鷹次	一一二〇 一一七五
二七	新川町	漁網製造業	山本安太郎	二四四
二八	花田町字堀先	生糸製造業	氏原助造	七九七
二九	西新町	醬油製造業	白井權八	五一五
三〇	下地町	生糸製造業	鈴木磯太郎	六七九

○顧問

船町	衆議院議員	大口喜六	三三四
中八町	仝	鈴木五六	一五六
鍛冶町		神戸小三郎	三二八
東田町	豊橋市長	田部井勝藏	一一三八

○役員

會頭	福谷元次	常議員	福谷藤太良
副會頭	山本安太郎	同	白井淺治郎
同	神野三郎	同	清水熊太郎
常議員	服部彌八	同	鈴木清
同	河合孜郎	同	今泉福太郎
同	氏原助造	理事	鈴木澄衞

○職員

書記	佐原代作	書記補	高橋明
同	水谷貞雄	同	石川喜一郎

雇員	神谷あや子
同	矢野久江
同	堀部さと
小使	近藤豐平
同	石原やす

當會議所沿革

當會議所は明治二十六年三月二十五日の創立で其區域は當時の渥美郡豐橋町を中心に仝郡田原、寶飯郡下地、仝豐川、仝牛久保、仝小坂井、仝前芝の七ヶ町村で明治二十七年頃の事務所の位置は豐橋町大字關屋百五十番戸に在つたらしく其後明治三十六年十月頃に仝町大字上傳馬丙百十九番戸に移り之と同時に從來の區域を變更して現在の地區に限局したのである更に明治四十一年十月一日に豐橋市大字西八百三十七番戸に大正四年二月十五日仝市大字中柴乙百二十番戸仝十年五月六日仝市大字本二十九番地に仝十五年十月二日花田町字石塚四十五番地の五に移轉したのであるが市の發展に伴つて事務益々繁劇を加ふると共に多年の懸案であつた新築の機運熟し本年一月二十八日の定期總會に於て同字四十二番地の一に今明兩年度に涉る繼續事業として工費六万圓を以て新築するに決し四月六日地鎭祭を行ひ同月三十日起工着々工事を進め十月九日落成を告げ同月十二日受渡を了し同月十六日移轉した此間三十五年數次の變遷を重ね隨つて役員の更迭も屢々行はれて居る而して經費豫算は大正十一年度金一万二千三百十五圓仝十二年度金一万三千二百六十八圓仝十三年度金一万三千八十圓仝十四年度一万三千五百四十五圓昭和元年度金一万四千四十七圓仝二年度金一万四千五百九十五圓仝三年度金一万九千六百圓と遂年增加して居る尙會頭副會頭の異動は左の如くである。

就職年月日	會頭	副會頭
明治二十七年	加藤六藏	三浦碧水
仝二十八年九月	三浦碧水	
仝二十九年五月	三浦碧水	
仝三十三年十一月七日	瀧崎安之助	
仝三十四年三月二十七日	瀧崎安之助	
仝三十四年七月九日	中尾十郎	
仝三十四年十二月七日		遠藤安太郎

明治三十六年十月一日	遠藤安太郎	杉田八五郎
		杉田久吉
仝　三十八年五月十九日	遠藤安太郎	中西廣三郎
仝　三十九年六月二十五日		大山復次郎
仝　三十八年五月十九日		鈴木清十
仝　四十年十月一日	高橋小十郎	遠藤安太郎
		原田万九
仝　四十一年八月三十日	服部彌八	原田万九
仝　四十二年五月三日	服部彌八	中西廣三郎
仝　四十四年五月五日	田中田新	中西廣三郎
		服部平之助
大正二年五月一日	田中田新	神戸小三郎
		中西廣三郎

大正六年五月一日	白井直次	中西廣三郎
		高橋小十郎
仝　七年十月七日	高橋小十郎	服部彌八
		中西廣三郎
仝　十年四月二十六日	高橋小十郎	服部彌八
		山本安太郎
仝　十二年九月二十八日	山本安太郎	服部彌八
		河合岩次郎
仝　十四年五月八日	福谷元次	山本安太郎
		神野三郎

昭和三年十月十七日印刷
昭和三年十月二十日發行

豊橋市瓦町字臨濟寺前十一番地
發行兼編輯人　鈴木澄衛

豊橋市指笠町參拾七番地
印刷人　高木鴻之助

豊橋市指笠町參拾七番地
印刷所　高木印刷所

豊橋市花田町字石塚四拾二番地ノ一
發行所　豊橋商工會議所
電話二〇九番

薪炭竹問屋

豊橋市西八町
白井淺治郎商店
電話三九五番
振替口座名古屋七四〇八番

呉服
太物

豊橋市西新町
小野屋商店
電話二一〇五番

肥料製造
蛹油工業
絹綿精練

豊橋蛹工場
熊田嘉平
豊橋市花田町字大塚
電話一一一六番

生絲製造

豊橋市花田町字池田

中

清水製絲場

場主　清水熊太郎

電話　四八六番
九〇四番

鹽乾魚賣買問屋

豊橋水産市場

豊橋市關屋町

電話一二七三番

電略(〇一)又ハ(〇)

月姫セーキ
月姫サイダー
月姫レモン
月姫ストロビヤ
製造元

丸太商會

豊橋市關屋町
電話五四九番

登録商標

醤油釀造

豊橋市西新町
釀造元

白井權八

電話五一五番

各種
石炭
販賣

合資
會社

八

杉八商店石炭部

電話五三七番
電略（カネ八）又ハ（八）

營業所　豊橋市關屋町

サントスコーヒー發賣元

豊橋市新錢町

和洋酒
類問屋

水藤商店

電話六一二番

各種
モートル
ポンプ
發動機
鐵管ベルト
一般諸機械
製作販賣

TMスチームトラップ發賣元

機械商
合資會社
トミタ商店

豊橋市花田町城海津石塚角
電話九二三番

青果物問屋

豊橋市松葉町船町通

い一和商會

電話一〇二七番

食料品界ノ寵児
今賣出シノチヤキ〳〵

洋食器
洋食料品 卸小賣

伊藤商店

伊藤菊次
豊橋市札木町十五番地
電話一五一五番

營業種目

書籍、雜誌

事務用品
文房具
萬年筆
謄寫版
寫眞帖

運動具ト服裝
トランプ
花札、かるた

豊橋市呉服町

豊川堂書店

電話三六八番 五二五番

◈事業種目◈

定期貯金　六ヶ月以上年利六分
當座貯金
普通貯金　三百圓以上百圓ニ付　日歩八厘
三年積立貯金　一圓以上百圓ニ付日歩壹錢貳厘
貸付金
當座貯金貸越
年賦貸付　年利一割
但貸付金及當座貸越年賦貸付ハ組合員ニ限リマス

豐橋市神明町一番地
有限責任 **豐橋信用組合**　電話一四七七番
仝　花田町流川八十番地　**花田支所**　電話一二四〇番

組合長理事　神戸小三郎
專務理事　三浦深藏
理事　原田万九
理事　佐藤善六
理事　內藤齋平
監事　河合孜郎
監事　白井淺治郎
監事　白井權八
信用評定委員　今西卓
小木曾丈三郎
藤田保吉
佐藤彌平
白井貞次郎

本組合ノ事業

◈本組合ハ社會奉仕ノ爲メ營利ヲ離レ產業經濟ノ發展ヲ資ケ且ツ組合員相互ノ德義ト信用トヲ涵養シ各副利ヲ增進セントスル國家的事業デアリマス

◈本組合ハ親銀行トシテ中央金庫ガアリマス中央金庫トハ各府縣ノ信用組合ノ餘裕金ヲ預リ又必要ナル資金ヲ融通スル親銀行ニテ政府ト組合トノ共同經營デアリマスカラ恰モ日本銀行モ同ジデアリマス

安全ナル庶民銀行ノ特色

◈本組合ハ其筋カラ所得稅、營業稅其他ノ課稅ハ免除セラレ且ツ低利資金ノ融通ヲモ受ケテ居リマス

◈本組合ハ產業組合法ニ依リ設ケラレタル社會法人ニテ大藏省、農林省ノ管理ニ屬シ縣廳竝ニ市長ノ嚴重ナル監督ノ下ニ業務ヲ取扱ッテ居リマスカラ御安心デアリマス

◈本組合ハ市街地信用組合デアリマスカラ組合員ノ外ノ何人デモ自由ニ貯金ガ出來マス又組合員ニ加入モ何時ニテモ出來マス出資ハ一口貳拾圓デ三十口以上持ツコトハ出來マセン

◈本組合ハ貯金總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ國庫ニ供託シ猶每事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立テヽ居リマス

◈本組合ハ銀行ト違ヒ預金貸出共市內ニ限ラレテ居リマスカラ利益ヲ市外ヘ搬ビ去ル事ハアリマセン

樂器の御用でしたら
是非御利用願ひます

豐富品揃

豐橋市札木（郵便局東）
代理店　**永井樂器店**　電話一〇八五番

蓄音器とレコード
大寶捌元

(一)日本紙業株式會社特約店

豊橋市萱町五拾四番地

內外諸紙

(雷)來本紙店

電話長四二八番
一六八〇番
振替東京八四六五番

理化器械
博物標本
度量衡器

石原製作所

豊橋市花田町西宿
電話一五一二番

豊橋市花田町
豊橋瓦斯株式會社
電話五二三番

消防と被服
火傷……打撲傷を完全に防備する
消防着は刺子服あるのみ
市田商店
豊橋市
曲尺手町三丁目七十三番地
電話一〇二八番
振替名古屋四八六一番

終